

もっ かん

「木簡」から貴族や役人の生活を調べよう

墨で書かれた木の切れはしのことを木簡といいます。奈良時代のころまでは、紙は貴重品でしたので、このように木の切れはしが紙の代用品として使われており、私たちに当時のようすを伝えてくれています。

- (1) 左大臣（現在の総理大臣にあたる地位）だった長屋王ながや おうの家のあとから発掘された「木簡」から、長屋王が食べていたものを調べてみましょう。

- (2) 右の「木簡」は平城京「右京」へいじょうきょう うぎょうに暮らしていた高屋連家麻呂たかやのむらじいえ まろという下級役人（「少初位下」というのは役人の中で最も下の位です）の6年間の働きぶりについて書かれた記録です。

- ◇この「木簡」を展示室で見つけましたか？（はい・いいえ）
- ◇家麻呂は何歳ですか。 _____ 歳
- ◇家麻呂は6年間で何日働きましたか。 _____ 日
- ◇家麻呂は1年間で、平均何日働きましたか。 _____ 日
- ◇家麻呂の仕事ぶりは、どのように評価されていますか。



少初位下高屋連家麻呂

右京 年五十

六考日并千九十九

六年中

- (3) 都の役人は、筆や小刀を使って紙や「木簡」に記録をつけていたことから、「刀筆の吏」とも呼ばれていました。小刀は何のために必要だったのでしょうか。

Memo
